

『DBS 調整外来』について、記事が掲載されました。

パーキンソン病治療の一つ 脳深部刺激療法

と喜ばれている。高齢化が進む中、患者の増加も見込まれており、同病院脳神経外科の小田正哉統括科長は「関心がある患者さんや家族の方、医師はぜひ相談してほしい」と呼びかけている。

パーキンソン病の治療の一つ脳深部刺激療法（DBS）の調整を行う専門外来を、秋田市の中通総合病院が開設した。県内では珍しく、これまで県外で受診していた患者からは通院負担が軽減される

専門外来、中通病院に開設

パーキンソン病は、脳の中で情報を伝えるドーパミンを作る細胞が減っていく進行性の病気。手足が震えたり、体の動きが緩慢になったりする症状が現れる。50歳以降の発症が多い。

主に投薬治療が行われるが、薬が効く時間が短くなったり、副作用が大きかったりする場合にDBS治療を採用する。脳の中に小さな電極を設置し、胸部に心臓ペースメーカーのような刺激装置（パルス発生器）を埋め、そこから電流を流し、脳を刺激することで症状を抑える治療法。

DBS治療を行う患者は、症状に応じて定期的に電流の大きさを調整する必要がある。これまで県内には対応できる病院

がなく、県内の患者の多くは県外へ通院していた。

DBS治療に取り組む岩手医科大付属病院（岩手県矢巾町）の西川泰正医師（脳神経外科）が、患者の通院負担が大きいと秋田県内の医師に相談。中通総合病院がDBS調整専門外来を開くことになった。昨春から毎月第3金曜に西川医師が診療に当たっている。県内ではほかに、鹿角市のかづの厚生病院が2019年度から西川医師を招き、DBSの調整を行っている。

現在、中通総合病院には20人ほどが通院している。にかほ市の女性（74）は「治療のおかげで症状が治まり、助かっている。専門外来ができる前は3

DBS調整を行う西川医師
|| 秋田市の中通総合病院



か月に1度岩手県の病院に通わなければならず、送り迎えで家族に負担をかけていた。県内で受診できるのはありがたい」と語る。

西川医師によるとパーキンソン病は60歳以上の

患者の通院負担を軽減

100人に1人がかかる」とされる。「DBS治療は、患者の生活の質を上げる画期的な治療法。病院の協力が得られ、ニーズの多い秋田市に開設できて良かった。調整はもちろん、新たにDBS治療を必要とする県民の窓口にもなりたい」としている。

(高橋あつき)